慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	外資輸入に就て
Sub Title	
Author	渋沢, 栄一
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.7 (1909. 9) ,p.165(43)- 174(52)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	講演
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090901-0043

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

のである。

次に之を科學的に解說しやうとするに際りては、自己並に種族の保存に有利なる動作といふが如き條件は、是非とも上述の如き理により排逐せねばならないのである。世には本能なるものを解釋するのに、生物には凡て自家保存並に種族保存の先天的性能を有するものであるなどと得々として述ぶる者があるが、此の如き臆斷的假定は實に科學界に對して暗黑なる雲霧をてそ散亂せしむれ、決して何等の光明を與ふるものではないのである。「ヴント」氏はさすがは斯界一流の學者たるに耻ぢない。氏は本能を解釋するに際しては毫も此の如き神秘的分子を混入せしめないのみならず冷笑以てかゝる手段の滑稽なるを指示して居るのである。吾人が今茲に述べし所のものは實に氏の著生理的心理學の所載に負ふ所少くない。乃ち一言附記して以て吾人の所信を確め置くのである。

外資輸入に就て

慶應義塾理財學會に於て

男爵　澁澤榮一君述

我國は開國以來五十有餘年の歲月を經て段々此商業が世界的に相成つて居るといふ事は申上げる迄もない又幼稚と自身も云ひ或は他國からも云はれて居るかも知れませぬけれども日本も何時迄も小供だと思つて居られぬので又思ひ度くないのであります、さりながら其仕事が我が本國の若くは又近隣の東洋に數多い割合に資本が充實して居るかと云ふとどうも「否」と云はねばならぬやうに私は考へるのです、故に商工業を世界的に進め而して此東洋が歐米と偉い競爭をする域になり得られぬか迄も卽はち敢て盟主と云ふ迄にも至り得られぬかも知らぬけれども重もな位地を占めやうと思ふならば本國の事業を今日の儘で決して置く譯にはいかぬ、現在も進めつゝありますし是迄も大に進み來つたが更に大に進めねばならぬと云ふ考へを增して來るのであります、然して是を進めるといふには勢ひ智慧も學問も勿論必要でありますから此事業の進むは人に依るとは云ひますけれども單に人間許りでは不可ない俗に申す空拳では如何に能者でも如何に英雄でも矢張り仕事は出來ない能者英雄は出來る樣には追々仕向けをして行くでもあらうが要するに他の餘りある所を以て足らざる所を補ふと云ふ主義を取る方が好からう、尤も外資を入れると云ふ事に就ては隨分舊くから經濟界に心を用ふる人は誰れも皆論じ來つた事でありますが數年前此鐵道の事業に對して資本を入れると云ふ事に就ては必要と見て頻りに論じましたけれども時に或は大分な反對說も生じまして隨分其議論は經濟界の一つの問題と申す如き有樣に相成つた事がありますが但し今の議論は今日では皆十日の菊になつてしまつた卽はち鐵道は國有になりましたから民業にして鐵道に依つて資本を入れると云ふ事

は法律は出來ましたけれども實際に於ては殆ど不用になりました、デ今申しまするのは三十九年鐵道國有の行はれぬ前の談である、私共の希望して居る所は只無暗に外國の金を借りさへすれば宜しいと云ふ所謂借金政略に計り依るのではない、乍然どうも此前にも申す通り東洋の仕事には資本が乏しい、故に適當の事業に對して良い方法に依つて內外の資本を茲に迎へるは所謂或事業に對して資本が這入れば今度は將來の資本は夫が補つて新らしく這入つた資本はモウ一遍先きに擴張が出來ると云ふので卽ち假りに十七會社の鐵道が悉く借金で遣る譯には行くものではありませぬけれども若しさうするとするならば四億五億の金員は會社の資本に依つて我が事業の計畫なり又其他の方面に伸び得ると云ふ道理になる、而して此鐵道會社に對して資本が這入つて來るために我國に取つて敢て損する處懼るゝ處は無からう、ツマリ安い金利のものが內を補つて其補はれた資力が他の事業に供用し得られるから所謂有無相通の道理に適ふ

商賣の原則であると自分等は思つて所謂經濟に境界無し一向そんな事は頓着なしで宜からうと云ふ論でありました、たゞ彼等に安心する道を與へんければならぬ、たゞ安心する道と云つて限りなく其鑄道會社の權利を侵害するやうな事になつては不可ぬ、鐵道に對する相當な權利を具へつゝ安心を與へると云ふ方法さへ講じられたならば宜らうと云ふのが、此鐵道事業に對する外國の資本を入れるに於ける吾々の議論であつた、處が是に反對し掛念された意見は鐵道の如きものは殆ど國家の普通の事業でない、故に鐵道法を以て其會社の成立も總べて政府は制裁をして許否を定めるものである茲で全で外國の資本に據る事になると勢ひ鐵道に對する權利に大いに毀損を生ずる事が無いとは云はれない若し鐵道會社の事業が蹉躓して資本の關係からして其權利が外國にでも移る事になつたら如何に日本の會社で創立して居つても外國戰爭する際には大なる不幸が生ぜぬとも云はれぬと云ふのが多くの杞憂者の議論でありました、猶夫

許りの單純な論ではなかつたかも知らぬが之を稱ふる者の中には隨分有力なお方も大分ありましたデ私等は是に反して夫は杞憂である日本の法律が定まつて居る以上は會社の許可を受けて居るものは決して外國人であつても何であつても日本の國民と同じ義務を持つて居るのである、株式を外國人に持たせる事は已に鐵道に許して居るではないか故に場合に依つては或會社の株は十分の七若くは八も外國に國籍のある人が持たんとは限らぬのだ夫は大なる株式會社を許可する時にさう云ふやうな氣遣をすると云ふのは頗る臆病千萬な話しである決して夫程迄には懸念なさるには至らぬ事である、此議論は隨分諸新聞に大分出たやうに思ひます、し政治家學者吾々實業界に居るものも種々討論致しましたが、結局は三十七年でありましたがトウ〳〵鐵道抵當法と云ふもので通過する事に相成りました、但し其通過が濟むと同時に國有になりましたから折角誂へて出來上つた着物は着る事が出來ずに仕舞つて、今日は丁度今の鐵道の株式のやがて公債證書にならうと云ふものを頻りに海外の人が面白い處の商品として頻りに輸出すると云ふ場合に相成つて居る、同時に內に資金が輸入して來るのでありまず、故に今の懸念說も懸念の場合を見るに至らずして希望者の希望も事實に於て民業として達する事も出來ずして仕舞ひました去りながら今申す通り其株券は今の金融の利息の關係から海外人が頻りに悅で買ひ取ると云ふ有樣を見ますると丁度吾々の希望したる事柄は一部分事實に於て行はれつゝあると云ふ事を申して宜しいと思ひます併し此鐵道抔に於ては誠に扱ひも仕宜いらしい又擔保と云ふ性質が明かに分つて居りますからして外國人の見附けも至極單純に解り易い故に是は今國有になりましたからして前に申す希望は達し得られませぬけれども事實に於ては行はれつゝありまず又工業會社も安い利息の金を外國から輸入して來ると云ふのは之亦一段の進步であらうと思へます而して此方法には之を鐵道と比較致しますと其進みが甚だ遲い之と同樣に相談の

成り立つ金利も比較的高い蓋し其間に多少安心の程度の少いと云ふ事も意味する事と思はれます、併し此事も一寸鐵道と同じやうに工場法と云ふものが成立致しまして均しく夫に依つて財産が極く手堅く提供し得られる方法が立ちましたから若し例へば資本家に安心を與るやうな道が追々講せられたならば金融の材料は單に鐵道のみに依るものと申さぬでも宜からと思ひます、果して近頃或會社は其やうな相談をしつゝあるやうであります、私が茲に未來に於て斯く有り度いと思ひますのは今申す鐵道なり工業なりが堅い手續きに依つて所謂社債の方法に依つて輸入して來る金と云ふものは蓋し極く四角な方法に依つて極まりは宜いやうでありますけれども事實相共通すると云ふ程度に迄は進んで居るまいと思ふ、今前に申す經濟には國に境が無くて有無がお互に水の流れる如く相通じ得るものとするならばモウ一層も簡便な方法に依つて英吉利であれ佛蘭西であれ又獨逸亞米利加の金融を通せしめると云ふ事に迄立ち至る品物と思ひます成る程國から考へますと云ふと大分隔て居り交通も陸運ではいけない海を隔つて居る其英吉利と日本を比べたならば殆ど東西相隔つたる處のお互に一孤島であるからさう自由に相通ずる事は出來ないであらうと云ふ疑ひはありますけれども金融界の有樣は決して一々其金を背負つて歩くと云ふやうな取引が大きい交通法に有り得べきものではない故に隣りの國に便利であつても其媒介の道が無ければ至て不便になつて來るし又如何に隔て居ても相當に順序が立てば便利に違ひない幸に我商工業に從事する人ならば益々進んで事業も擴張され信用も向上して行きましたならば私が前申したやうな融通法が生じは仕まいかとかう思ふのであります、自身も極く細かい扱ひ振りは心得ませぬからして茲に諸君に講釋が間敷く申し上げる程の說は持つて居りませぬけれども蓋し英吉利の金融界の有樣抔は日常の取引は思ひの外金利が安い現にバンク、オブ、イングランドの二分半と云ふ利率は市中銀行の利率よりは幾何か高い

と云ふ事になつて居るシテ見ると二歩半よりも安いのが通常の取引にある、されば日本で取引をする時にどう云ふ譯であるかと云ふと矢張り左樣な安い國に向つても六歩も七歩も取られて居る夫は其間に種種な滅却する者があるからであります卽ち其間に種々な關門を通る此取引の間に幾何かの減りが立つ、茲で幾何かの手數料を取られる故に甚しきは倍以上の利息になつて日本に注入される私は銀行者ですから餘り世の中の金融が安ければ詰り己の商賣は上つたりである、知らない諸君はさう云ふ事を云ふと御笑ひなさる、併し私が銀行を初めた時には大層安い金が一割二歩であつた明治六七年頃には高いのが一割五歩、然るに大阪迄の爲換が一圓に就て八十錢迄取つた餘り泥棒のやうな取り方であたが今日から見れば可笑いけれ共假令今日金利は六歩になつたとて銀行者は夫で迷惑すると云ふ事はない、詰り夫だけの金融の扱ひが多くなる若し三歩になつても矢張り銀行者は經營が出來るのである、夫に一時私の銀行だけが三歩になつたら之は堪りませぬが世間おしなべてさうであるならば夫だけ取引が多くなる、三歩の金利の場合に四歩で預けるよりも只で預つた者を三歩で貸す方が余程利益である、卽はち利息の下ると云ふ事が詰り國の利益を增すと云ふ事になるので、銀行取引をする人も皆共に損をせず皆益をすると云ふ事にしたら宜からうと思ふ、是が眞正の利益であらうと思ひます、取引所で相場をして甲の奴が幾何損をした乙の奴が勝つて德をした一方が德をした時には一方は損をして居る是は眞正の利益とは云へない一般の融通が良くて金利が安くなり信用が鞏固になつて融通が良くなると云ふ事は卽ち眞正の國益である而してどうしても此國の金融をして共通せしむると云ふ譯であつたなら仕事が多くて資本が少ない處と仕事が少く資本が多い處では金利は共通せねばならぬから彼の英佛の如きは次に申した方で我が國の如きものは前に申した方だと云ふ事は皆何誰も御是認なさる事と思ふ故に此海外の金融をして私が前に申す鐵道保護

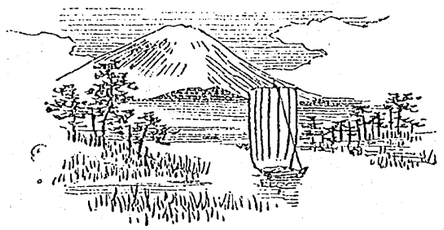
若くは工場抵當法と云ふやうな道許りでなくして輸入する途は追々進めて行き度いと思ふ事であります、マアボツ〳〵とさう云ふ途が開けかゝつて居るやうでありますが併し其割合が甚だ面白くない乍然外國の資本を日本の金融社界に輸入する途は追々に開けるかと思ます、併し今日の處では此開け方が甚だ微々として居る又其相談をする向は餘程の安心の出來る會社でなければ中に這入り手が無い這入つても其相談が成り立たぬ又借りても大變に割合が高い詰り出來ない相談になる是が相當なる會社であつて日本で借りるよりも倫敦の資本を持つて來れば良いと云ふ事になつて、玆に自然に其通法が成り立つたならば日本前途の金利を低下せしむる事が出來ると同時に又仕事の上にも自然と其金利が安くなるから出來得べき事業は多々ある擴張も出來得るであらうかと思ひます、單に此方の工業會社と夫から倫敦の銀行とが直接に引附き得るか、中に一つ若くは二つの仲繼ぎを求めんければならぬかと云ふ問題であります、今の處ではどうしても二つ位間があつて向にもビルブローカーがあり此方でも銀行仲買があつてさうして接續してボツ〳〵さう云ふ方法が行はれ來つて居る、是は私共至極良い方法と思つて其仕事や追々進めかしと望んで居るのでありますが只其利用が段々進むに就て其れに從事するものが他く迄も信用を鞏固にしてキツチり約束通り仕事をすると云ふ感念が無いと俗に申す待つた無しの將棋を指す樣なもので夫は大に遣り損つた其駒を取られては大變だと云ふやうな事では外國人との取引は出來ませぬ、マア獨り私が申すのは決して商賣界の上から許りであつて理財と云ふ方からは網羅した言葉には相成りませぬ、マア回顧しますと三十九年の大戰役に際して國家は大變に海外より負擔をした其負擔の始末は未だ俄かに償ふ事は出來ませぬ一昨年には公債が段々下つて參つて遂に鐵道を國有とした五億の公債は間近に出て來る既に斯くの如き情實を以て五億の公債が出る、品物が多く出れば値は下る又日本の政府のする事が分らぬからと

云ふので資本家は始終尻込むやうな有樣であつたマア昨年から一昨年にかけまして是はどうか力を入れて改革をせねばならぬ改革をせねばならぬと云ふ議論は夫こそ新聞に演說に又廟議に何れの方面に於ても段々御座いました、吾々も銀行家として殊に公債の整理をして外國に向つて信用を回復して是から外國人をして限りない借財をして國家を維持すると云ふ考へではないと云ふ事を知らしめねば不可ませぬ、其事を最も主張して其筋の諸君に向つて盡力し甚だしきは銀行者は公債許りに眼を附けて騷いで居る、外の事に就ては政府に一つも請求せずに己れの持つて居る公債さへ高くなれば宜いと云ふやうな得手勝手な者共だ抔と云ふ新聞の批評も受けた事もあります、吾々は決して公債さへ高くなれば宜いと云ふ譯ではなかつたが先づ銀行業としては金融が調理して行かねば不可ぬ、金融を良くせむとするには公債價格を高くせしむるより外無いと云ふ事を頻りに主張した、續いて各會社の鐵道公債抔甚しきは七十圓になるかも知れぬと云ふので是は如何なる方法に依つて價格を維持するかと云ふ事を個々に鐵道會社も懸念しました、其懸念を銀行者に謀つて銀行者も互に杞憂を抱いたに依つて前の內閣今度の內閣にも早々出て其方法に就ては評議も致した譯であつて、是等の事は未ださう歳月も經つて居りませぬ處が一年ソコ〳〵の間に政府が此政費節約をして公債を整理するといふ事を覺悟されて其覺悟された事が着々事實に現はれて來る爲でもありませうが是等の公債價格を恢復して其間に殆ど七十圓にもなり尙下にでもなりはせぬかと云ふ者が八十圓になつて來たです、十圓以上恢復して今日は先づ其時の鐵道會社の人々抔の豫算は九十圓と立つた所が九十圓は扨て置き八十圓にも切り込む、斯くては實に堪まらぬと云ひましたが堪まらぬと云ふものが九十圓以上にもなつたのは頗る財政將來の爲に誠に慶賀すべき次第で御座いますが併し私はさう云ふ財政とか若くは鐵道經營と云ふ許りでなくして是から先き永久に金融を緩和せしむる方法とし

ては前に申しましたやうな事を追々に進ませ度いと深く思つて居るのであります、而して其眞正なる金融の調和であれ商品を製造する方法であれ其間に媒介者が多分の費用の費へぬやうにせられたならば日本の金融に對して未來は大いに面目を改める事に立ち到るであらうと思ひます、扨て希望は左樣でありますが其事柄が直ぐ目前に全然行はれて行くと云ふ事は或は期し難いと思ひますので而して更にさうなつた曉には如何であるかと云ふ事に就ては悅ぶと同時に私は矢張り懸念せねばならぬ事があるであらうと思ふのであります、如何にも左樣相成つたならば決して日本の金融界は大いに面目を更め吾々が其八歩九歩と云ふ利息に由らんでも仕事が出來ると云ふ事は必ず云ひ得るでありませう故に事業は伸びるに相違ないと思ふが取りも直さず名譽に對しては義務が生じ譽れに對しては謗りが起ると同じやうに危險は始終免れぬと思ふ丁度其通ずると同時に悅びばかりを共通せしむる事は出來ないで憂も共通せねばならぬ譯になるから海外に生ずる金融界の恐慌抔と云ふものの感念が日本に酷しくなり遂に夫が調和防禦し得る又耐忍し得る覺悟を持たぬと只單に一時の融通を得たのを悅ぶのみに終つたならば或は其爲に大いに事業を更に困憊せしむる事がないとも限らぬと思はれます兎に角少し調子に乘ると云ふ事が我が國民の通弊と云はねばならぬのです或場合に調子が宜いと直樣皆其處へ乘つて行くので其爲に甚だ中庸を失ひまして其言動に對して大なる反動を起す一寸短い間の事ではありますれども三十九年の八月頃から四十年の一月迄に此經濟界が何か狂奔した如くに騷いて居つた事抔は今申す調子から起つた事で殊に是れに懲りて四十年の春から四十一年の春にかけて殆ど水を打たやうに沈靜して仕舞つた、蓋し進むに早いものは又退くにも早い、甚しきは羹に懲りて膾を吹いて居る人が澤山あるかも知らぬ今のやうな時代に進んで參るとするならば其前に於て俗に所謂平素の修練が甚だ必要であらうと思ひます第一其處に到らしむると云ふ事は俄かに得る事ではありませぬからマア申さば金持ちになるのがなつた後は心配だと云つて成るたけ金を儲けぬやうな注意をすると云ふのは馬鹿氣た話であるから後の懸念は已むを得ぬとして先づ懸念をする身柄になり度い今日は吾々は拮据經營は致しますけれども果して私が今申す理想が望みの通りに進むとしたならば夫で以て萬事足るか能事畢るかと云ふに決してさうでない夫は益々仕合であるけれども未來の困苦を考へねばならぬ事である、どうぞ其事を忘れ度くないものであると思ふのであります、

理財學會に對して申上げる程の有益なものではありませぬが海外の資本を我が事業界に輸入すると云ふ事はモウ私共殆ど商賣人となつて以來の希望でありまして年一年に進で參て既に三十五年私が洋行致しましたが其時分商業會議所の代長者として日本商業者の意志を海外に疏通する事は廣告的に方々へ出て談を致しました、金が借りたいと云つて談をした譯ではない成るたけ事情を通じたいと云ふことであつた夫等も格別な効能も見えませぬけれども前申します鐵道法と云ひ今申す各國商業會議所に談をしたと云ふ事柄抔は今日に立ち到る迄の段階と思ふのであります、其長い間に運びが段々に進で參つたとして見ると蓋し蒔く種子が其處に生えるので勉强した事は決して無能に終る事ではないと云ふ事は考へられるやうに思ひます果して然らば今次に申しました商工業者の直接取引も今只一二の例としてしか申されませぬけれども大いにさう云ふ事業は進んで來るであらうと思ひます、果してさうすれば最初申した危險が矢張り互に生じて來てアヽ云ふ事を開いたからかう云ふ馬鹿な事が出來たと云つて後にさう云ふ事迄批評を受けると云ふ世の中にならぬとも限りませぬ人は望みが足ると又次の望みが起きて又望みに對する弊害が生じまするが之は人間の弱點で御座いましてさう云ふ事柄は總べての人の間に免れぬも

のであります、既往を繰り返して考へて見ますると色々な變化が起りますが夫等の顚末を御參考迄申し述べた次第であります、（拍手）



人間の發展

慶應義塾理財學會に於て
文學博士　建部遯吾君述

私は人間の發展と云ふ題を掲げました、是は卽ちヒユーマニテイーのデベロープメントと云ふ意味でありまして、全體今日までヒユマニテイーと云ふ言葉は我々は屢々聞くのであります、併ながら此ヒユーマニテイーと云ふ事は歷史あつて以來果して一定不動なものであるか、ヒユーマニテイーと云ふ事の觀念は學者に依つて殊に思想家に依つて、稍々其意味を異にする者もありまするが、ヒユーマニテイー其ものゝ客觀に於ける實體は果して歷史あつて以來、一定不動のものであるかと云ふ事に就て、少しく歷史上の事實を調べて見るとヒユーマニテイーは非常な發展を遂げて居るのである、歷史の始よりヒユーマニテイーと云ふものは若し言ふ事を得べくんば、左樣なものがあるとしました所で、今日言ふ所のヒユーマニテイーと

は甚だ違つて居るのである、否實を言ひますと、ヒユマニテイーと云ふものゝ客觀的に成立したのは實に今日に於て始めてゞあるのであらうと云ふのが私の斷定であります、其事に就て聊か歷史の大體の事實の後を迚つて御話して見たいと思ふのであります。

ヒユーマニテイーは如何樣にして發展して居るかと言ひますると、大體に於て二つの點があります其一つはヒユーマニテイーの分量の增した事であります、僅かに五十人七十人を以て組織するものもヒユーマニテイーと言ひ得べくんば、其ヒユーマニテイーからして今日十幾億に增加して組織するに至つたのは卽ちヒユーマニテイーの人口の量の上からして非常な進步と言はねばならぬ、卽ちヒユーマニテイーの發展の肝要な事項の一つは人口增殖と見るのであります、又第二點として、人間の發展は交通の發達と云ふ事である、實を言ひますると、世界が廣くなつた、地理學上の世界が廣くなつたと云ふ事を言ひたいのであります、世界は其實古往今來少しも廣くはなりはせぬ、極く精密なる事を言へば世界は縮つたのである、夫れはどう云ふ事であるかと云ふと地球の熱度と云ふのは約六十萬年にして一度の割合を以て冷却しつつあります、凡そ熱が冷却するに隨つて、物が縮まる、現に地震と云ふものがある、又火山の噴出すると云ふ事があります、是は表面が縮まるのに內部は左程縮らないのでありますから、噴出すのである、是を喩へて言ひまするならば蜜柑を押潰す時に內から汁抔が出る如き譯のものである、淺間山、磐代山と云ふやうに日本に於ては近く火山の噴出を經驗せしむる以上、地球は實に小さくてそなれ、大きくはなつて居らぬのであります、然るに此時に於て否此地球の表面に於て人間が發展して居ると云ふ事は如何なる事であるかと云ふと、人間の占めて居る地面は廣くはならない、今まで御互に往來し、御互に交通せざる所が次第に交通を始めて來たと云ふに外ならぬのである、故に人口の增殖に對して今一面には夫等人間の發展卽ち